

東京理科大学サイエンスフェア学生企画

みらい研究室

～科学へのトビラ～

2009年アンケートデータ報告

昨年度、ご協力いただいた団体様に関しましては、誠にありがとうございました。今までのところ、来場者数も一昨年の 3000 人から昨年度は 5000 人にまで増え、より多くのお客様に来ていただくことができました。私ども実行委員会といたしましても、皆様のご協力なしには小・中学校のお子様、またその保護者の方々、さらには、その他大勢の方々のお客様にご満足いただけなかったと思っております。この場を借りて、御礼申し上げます。

私どもが主催しています、みらい研究室～科学へのトビラ～は、大学創立 125 周年を記念し、お台場は日本未来科学館にて子供たちに理科のおもしろさを伝えるために作られたものです。そこからはや 5 年。大学の広報課の方や工学部の金刺教授、理学部の竹村先生に支えていただきながら、精一杯、子供たちに学校の教科書から離れた実体験として、理科から、驚き、発見をしていただき、楽しさを実感していただきたいという思い。このイベントで理科に関心をもっていただいた子供の中から未来のノーベル賞が出てほしい！そんな思いで、実行委員会は日々活動をしています。

そしていよいよ今年度で 5 回目を迎えます。そこで、実行委員会と致しましては、今年度更なるお客様のニーズを満たすべく、また、参加していただく団体様にもより良いものをお客様に提供していただきたいと考え、昨年度のアンケートを分析をすることとしました。実際お客様が何を求めている、何をわれわれが社会に提供しなくてはいけないのか、そうした思いを精一杯、分析致しました。
是非、今年度のイベントにお役立てください。

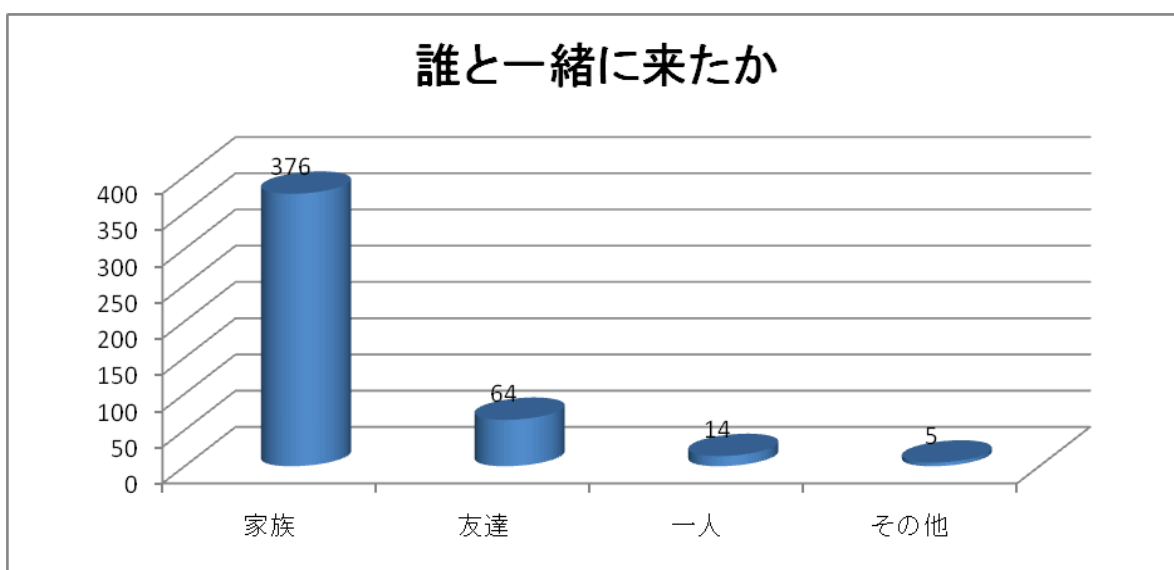
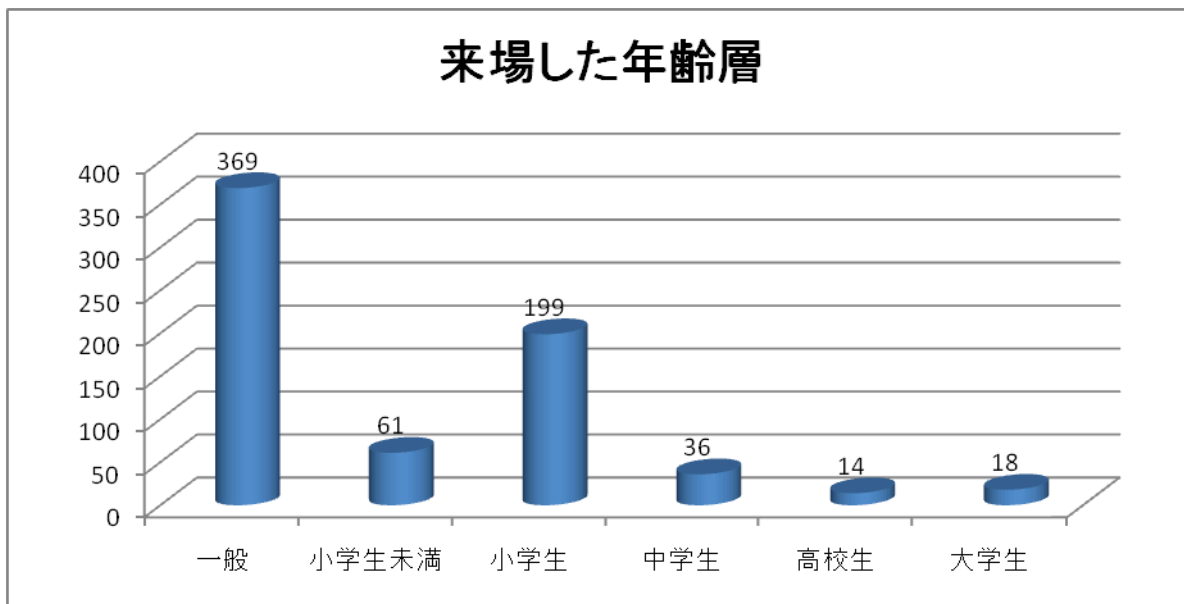
なお、本アンケートの主張は、みらい研究室～科学へのトビラ～実行委員会広報班のものであり、東京理科大学ならびに東京理科大学関係各所の公式見解を示すものではありません。

みらい研究室実行委員会広報班
浅石・山田・山崎



1. 年齢層について

本イベントにご来場くださったお客様の年齢層とどのような人と一緒に来たかについてご報告いたします。



これをみていただければわかるように、まず、ご来場して下さったお客様の年齢層ですが、中学、高校、大学生の来場者が少ないこと、また一般・小学生以下のお客さんが圧倒的に多いことがわかります。

つぎに、どのような方々と一緒にご来場されたのかですが、一番多かったのは、家族での来場で、圧倒的多数（376人、82%）でした。また、次に多かったのは、友達と来たという人（64人、14%）でした。

以上の結果を踏まえ、次のようなことが言えるのではないかと考えます。
まず、小学生の方、ならびにその保護者の方と思われる一般の方が多くご来場していただいている。また、ご家族、お友達と一緒に来ていただいているケースが多い。
そこで、

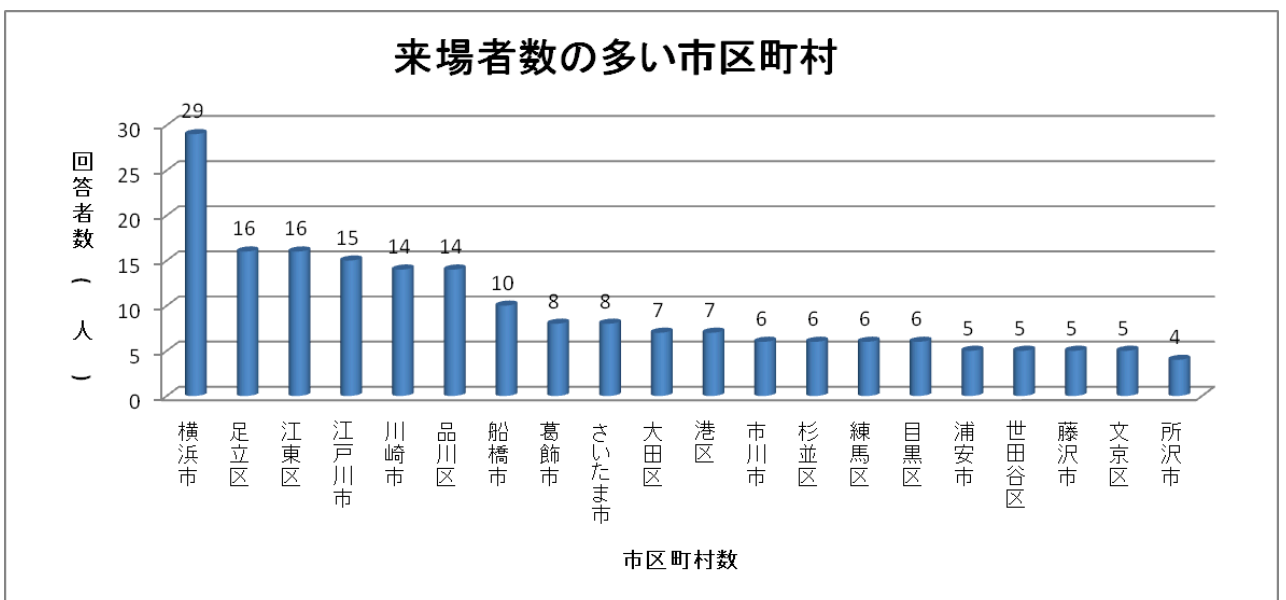
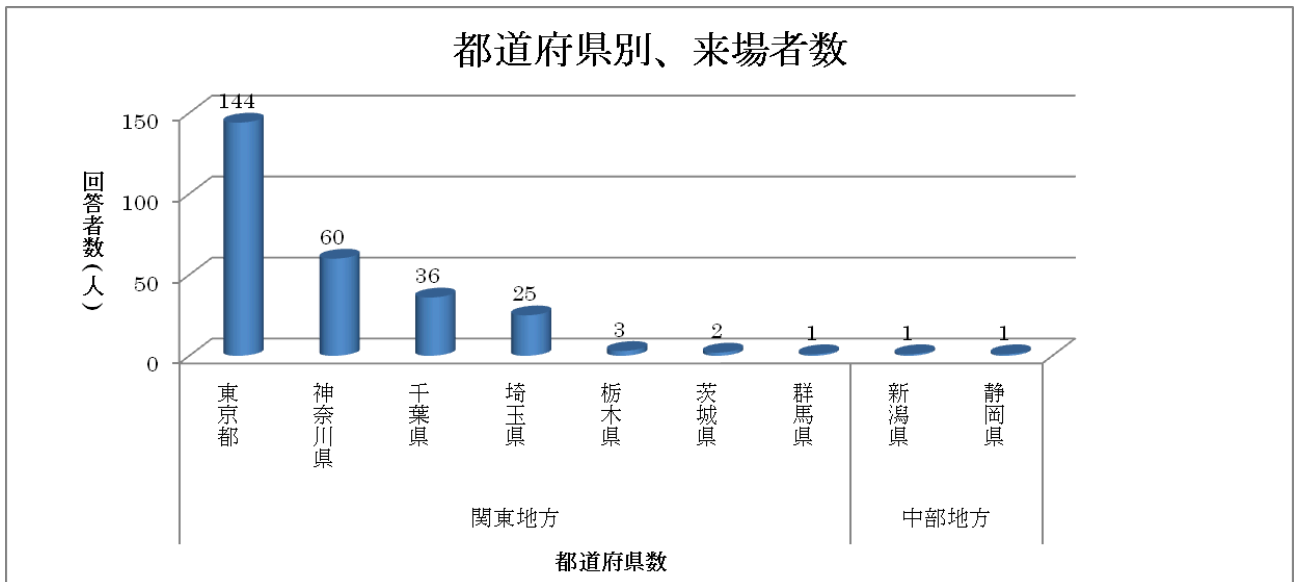
複数人が同時に参加していただけて、よろこびを共有できる体験型の企画を是非ご提供いただきたいと思います。

お客様の年齢がこれだけばらついているので、ある程度年齢層を絞りたいと思っています。つまり、本イベントは小・中学校の子供たちに理科の楽しさ、驚きを体験を通じ実感していただくものです。ですから、できるだけ直感で理解できるようなものの方がいいと思っています。理解しなくちゃと思わなくても感覚で、「なんか理科ってすごいぞ」ってお客様に思っただけ、そんな企画でご出展いただけることを期待しています。

最後にこれは実行委員会としての新たな改善点ですが、記念写真を複数人でできるように、また年齢層を昨年度は小さいお子様に限定していましたが、本年度は、ご家族、お友達とでもできるようにしていければと思っています。

2. どこから来たお客さんが一番多いのか

どの地域からのお客さんが多かったのかについてご報告いたします。



どのような地域からお客様に来ていただけたのかについて分析させていただきます。

まず、都道府県別、来場者数についてですが、以下のようなことがわかりました。

- ・東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県、新潟県、静岡県の 1 都、8 県の地域から来ていた。
- ・回答者の最も多くが、東京都（144 人、52.7%）から来ていることがわかります。
- ・回答者が最も少なかった都道府県は群馬県・静岡県・新潟県（各々 1 人、0.40%）であった。地方でみると関東地方（271 人、99.3%）が過半数を占め、中部地方（2 人 0.7%）は全体に占める割合が非常に小さかった。北海道、東北地方、近畿地方、中国地方、四国地方、九州地方に関しては来た人はいなかったということがわかりました。
- ・開催された東京都から距離が遠い都道府県は来場者数が少ないという傾向がみられるという結果になりました。

次に、市区町村の来場者数についてより代表的な市区町村について見てみることにします。この選定作業には、お客様の市区町村の数をもとに、その平均値より大きいところとしました。なお、本来は中央値でも分析する必要があると思いますが、分析結果が同一のものであり、また、全員が共有できるわかりやすい情報である必要を感じたため、あえて本分析では、中央値ではなく平均値による分析を載せてあります。

- ・横浜市、足立区、江東区、江戸川区、川崎市、品川区、船橋市、葛飾区、埼玉市、大田区、港区、市川市、杉並区、練馬区、目黒区、浦安市、世田谷区、藤沢市、文京区、所沢市の 9 市、11 区から来ていた。
- ・回答者の最も多くが横浜（29 人、12.9%）から来ていることがわかります。
- ・回答者が最も少なかったのは、所沢市（4 人、1.8%）であることがわかります。
- ・市区町村では横浜市（29 人、12.9%）、足立区・江東区（各々 16 人、7.1%）、江戸川区（15 人、6.7%）、川崎市・品川区（14 人、6.2%）、船橋市（10 人、4.4%）の 3 市 3 区で来場者数の過半数を占めていることがわかります。
- ・開催された港区から距離が近い市区町村は来場者数が多いという傾向がみられるという結果になりました。

以上を踏まえまして、各都道府県からより多くの方々にみらい研究室のイベントを知ってもらい、ご来場頂くべく、実行委員会では次のような工夫を行って参ります。

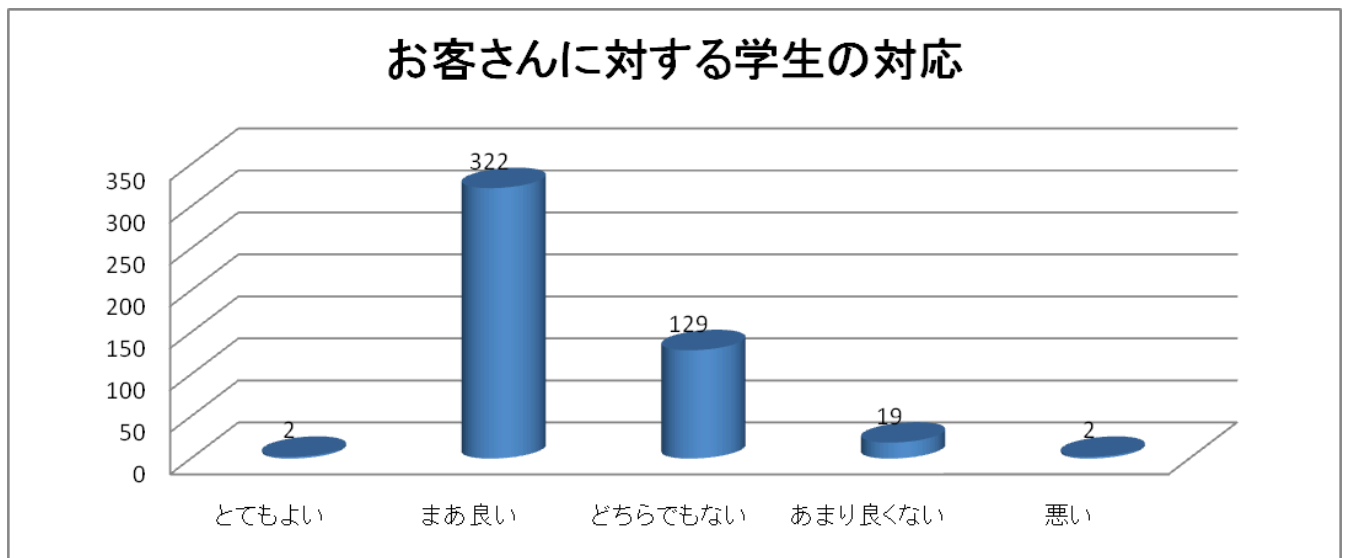
1. 東京理科大学の各キャンパスにみらい研究室を紹介するポスターを掲載できる場所を設けてもらう。また、理大祭やオープンキャンパスなどの学校行事の時に、ビラを学校案内パンフレットと一緒に配布してもらうような工夫をし、野田キャンパス、久喜キャンパス、九段校舎・神楽坂キャンパスの 3 キャンパス全体でみらい研究室～科学へのトビラへの宣伝をしていただく。また、大学側と交渉し、大学のホームページにものせていただけるようにする。
2. アンケートに連絡先を書いて頂いた方々には、今年のみらい研究室のイベントの簡単な企画内容の紹介や開催日などをお知らせするメールを送るなど、昨年来て頂いた方々に今年も来て頂けるように工夫をする。
3. 可能であれば、東京理科大学の学校案内パンフレットや理科大のホームページにみらい研究室の紹介を載せて、理科大を受験することを考えてくれている中学・高校生に興味を持ってもらえるようにする。

これを見て考えるのは、工業地帯、文教地区からお越しの方が多いということです。これは、お客様の目が肥えている可能性を少なからず指摘しており、われわれに望まれるレベルが中途半端なものではなく、ある程度のものを望まれると考えています。是非よろしくお願いします。



3. お客さんから見た学生の態度について

お客様が学生の対応にどの程度満足したかについてご報告いたします。



学生の対応にはそこそこ満足しているようですが、“とてもよい”と回答したのはわずかにとどまっている、という結果となりました。ただ、全体としては好評であり、ほっとしています。今年度は“とてもよい”の評価が増えるよう実行委員会としても参加団体様に団体様向けの会議、当日のマニュアルを通じ、具体的な指摘をしていければと思っております。

またお客様からいただいたコメントの中に今年度の向け、参考になるであろうものをいくつかピックアップしておきたいと思います。イベントの初日の午前中には、お客様から学生同士で話していて、きちんとした対応をしてもらえなかったというご意見や各ブースで資料をもらえるように統一してほしいというご意見を頂戴いたしました。

実行委員会といたしましても、お客さんに真摯に対応して参りますので、出展者団体の皆様におかれましてもご協力をお願いいたします。さらに、必要以上に多い人数で参加していただくことに関して、工夫していただければ幸いです。

最後になりましたが、「みらい研究室～科学へのトビラ～」は今回で5回目の開催という節目の年を迎えます。それとともに、実行委員会のメンバーも大きく代が変わりました。去年とは違い、大学の関係各所の皆様、顧問の工学部金刺教授、理学部竹村先生、団体様には、ご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、なにかありましたら、気軽に実行委員会におっしゃっていただければ幸いです。また本アンケートについてはもとより、イベントに関する疑問は適宜公開しているメールアドレスの方までお問い合わせください。早急に対応させていただきます。私ども実行委員会は、「理科が好き。だから、伝えたい。」を合言葉に、これからも理科の面白さを様々な方々に知ってもらうべく皆様と共にイベントを創り上げていく中で共に成長できればと思っています。本年度もご協力の程、よろしくお願いいたします。

是非、今後もみらい研究室と一緒に盛り上げていきましょう！

第5回みらい研究室実行委員会 一同

